

生物多様性の保全

生物多様性ガイドライン

Hondaは、自社の企業活動が生物多様性に影響を及ぼす可能性があることを認識し、早くからその保全につながる活動に力を入れてきました。2011年には「Honda生物多様性ガイドライン」を制定。生み出す製品と企業活動における環境負荷を最小化することが生物多様性の保全に対する最大の貢献だと考え、同ガイドラインにおいて、「環境技術の追求」「企業活動での取り組み」「地域社会との連携」などの重点取り組み領域を定め、積極的に推進しています。

Hondaは、生物多様性を損なう最大の要因は、温室効果ガス（GHG）と汚染物質の排出であると認識しています。そのため、同ガイドラインで優先順位を付け、計画的にそれらの最小化に取り組んでいます。

Honda生物多様性ガイドライン

【基本的な考え方】

Hondaは、「Honda環境宣言」における“地球環境保全”の重要な取り組み課題として“生物多様性保全”を認識し、企業活動との調和を図っていきます。

重点取り組み領域

1. 環境技術の追求

低燃費車、次世代自動車、エネルギー創出等の環境負荷物質低減技術の開発と普及により、生物多様性の保全に貢献します。

2. 企業活動での取り組み

効率の追求による環境負荷物質の低減と資源の有効活用を推進します。

3. 地域社会との連携

Hondaが「ふるさとの森」「ハローウッズ」等で培ってきた“生態系を大切にしてきたノウハウ”を活かし、ステークホルダーと連携・協力しながら、地域に根ざした活動を推進します。

4. 情報の開示と共有

成果を開示することで、社会と情報の共有を図ります。

2011年5月制定